

# P915 MEDUSA



クイックガイド  
バージョン2

FOCUSスペクトル全体にわたる音の重量感を再調整。従来のティルトEQではない

FOUNDATION特定の周波数をターゲットにせず、低域スペクトル全体に知覚される重みと安定感を確立します

DEPTH  低域帯域において、立体感と広がりを経験します

DENSITY 過度な歪みを生じさせることなく、音のまとまりと確固たる質感を高めます

バンドミュート  
バンドの寄与をミュートする

バンドゲインノブ特定の周波数帯域を強調します。各バンドは相互に作用し音楽的に調和するように設計されています

AIR  高域帯域において明るさを強調することなく開放感と空気感を拡張する

HIGH BLOOM 鋭さや誇張なく、高域スペクトルにおける開放感と広がりを引き出す

PARALLEL オリジナル信号とメデューサの処理結果を同時に出力



DEPTH  
EDGEDEPTHレンジの境界で確固たる質感と輪郭を定義します

SPLIT 左右チャンネル間で半オクターブ帯域を切り替え、相関性の低下と知覚上の幅を増加させます  
LおよびRアイコンでオン/オフを切り替え

TIME ディレイではなく、スミアリング、拡張、創造的なテクスチャを生み出す時間ベースのインタラクションを導入

AIR EDGEAIRレンジの境界で、確固たる表現と明瞭さを形成する

BLEND Medusaのコントリビューション量を出力レベルで設定します。0~100の全範囲は、あらゆるリスニング状態で完全に使用可能です。

デルタ出力にはメデューサの寄与のみをルーティング

# TIPS

- DELTA + TIME  
→ 意図的なフランジングとコームフィルターのテクスチャを有効にします。
- 低めのブレンド(5~10%)  
→ 寄与度を調整しながらリファレンスリスニングが可能。
- PARALLEL, BLEND 30-40%  
→ 音楽的文脈を聴きながら最終バランスを調整。
- 高いBLEND(50~100%)  
→ ソースに大きな再配分やクリエイティブなテクスチャが必要な場合に有効です。 MAIN OUTでレベルを合わせ、感覚的に判断してください。
- 決定的なバンド操作  
→ 特定の帯域を明確に強調し、効果を確認。バランス改善が見られない場合はリセット。
- 複数のバンドが想定される  
→ 複数のバンドを併用することで、ゲインを積み上げるのではなくエネルギーを再配分する。

# 初回利用ワークフロー

## 1. DELTA(ディスカバリー)から開始

- DELTAに切り替えてメデューサの貢献のみを聴取。
- 必要に応じてリズムと音色の基準を保持するため、BLENDを5~10%で開始。
- 広帯域で操作し、帯域間の相互作用は意図的なものです。

## 2. グローバルコントロールで形状を調整

- まずFOUNDATIONとHIGH BLOOMで重量感と開放感を設定。
- AIR / DEPTH とその EDGE コントロールで微調整します。
- 必要に応じてDENSITYでまとまりを加える。
- TILTは補正用EQとしてではなく、全体のトーンバランス調整に使用する。

## 3. TIMEの活用(任意)

- スミアリング、延長、テクスチャ効果を得るためにTIMEを有効にする。
- DELTA では、BLEND を高く設定すると、TIME はフランジングやコームフィルタ効果を生み出すことができます。
- ディレイやコーラスのような挙動は期待しないでください。

## 4. PARALLEL(コンテキスト)に戻る

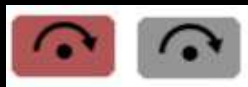
- 結果を文脈で聴くには PARALLEL に切り替えます。
- 通常のコンテキスト評価では BLENDを\*\*約30~40%に設定し、トラックに明確な再配分が必要な場合は 50~100%\*\*まで上げてください。
- 統合された信号を聴きながら、バンドとグローバルパラメータを調整します。

## 5. 最終チェック

- 結果が適切になる位置に BLENDを設定してください。0~100の全範囲が有効です。レベルを揃え、ピークレベルではなくバランスを判断してください。
- ピークレベルやアナライザーの形状ではなく、バランスと統合性を判断してください。

### 避けるべきよくある間違い

- メデューサをパラメトリックEQのように扱うこと。
- 視覚的にカーブを合わせる。
- TIMEがディレイのように動作することを期待する。
- 単一バンドを単独で使用する。



バイパスは、影響を受けていない生のオーディオ信号を処理せずに通過させます。



寄与信号を反転させ、代替的な相互作用とバランスを探索します。

GRAIN

GRAIN

Medusaのコントリビューション信号に微細なテクスチャを加えます。

TX LO

TX LM

TX MID

TX HM

TX HI

トランスフォーマー選択は低域の特性を変更します。より豊かな低域にはLowを、締まった低音にはHighを設定。オプションはLow、Low Mid、Mid、High Mid、High。デフォルトはLM (Low Mid)。

左クリックで順方向、右クリックで逆方向に切り替わります。

OS

OS

オーバーサンプリングオプションにより、P915はホストのサンプルレートの倍数で動作させることが可能です。オーバーサンプリングオフ時、P915はホストサンプルレート(x1)でゼロレイテンシー動作します。オーバーサンプリングを有効にすると、異なるオプションが利用可能になります。VINTAGEモード、INTELモード、HDモードの説明を参照してください。

VINTAGE

VINTAGEモードはホストサンプルレートの2倍(x2)で動作します。高域に滑らかなフィルターを適用し、クラシックなロールオフ特性を維持すると同時に、エイリアシング信号を無加工のまま残します。これにより、滑らかなビンテージ風高域と現代的な非調和歪みを創造的に組み合わせることが可能です。44.1kHzまたは48kHzのホストサンプルレートでオーバーサンプリングする場合に最も効果的です。

INTEL

INTEL(インテリジェント)モードはホストサンプルレートの2倍(x2)で動作します。全周波数帯域をスキャンし、エイリアシング信号を低減します。この高度なフィルタリングによる処理量は、信号特性とP915の負荷度合いに大きく依存します。



HD

HDモードは内部サンプリングレート384kHzで動作します。INTELモードと同様の全周波数スキャンフィルタリング戦略を採用しています。高いサンプリングレートとフィルタリング機構により、驚くほど効率的なCPU負荷で極めて高品質なオプションを実現します。

HDオーバーサンプリングを実現するため、P915は以下のロジックを適用します：

- 44.1kHzおよび48kHzはx8倍オーバーサンプリング。
- 88.2kHzおよび96kHzはx4でオーバーサンプリング
- 176.4kHzおよび192kHzはx2でオーバーサンプリングし、これによりINTELおよびVINTAGEオプションを有効化します。
- 384 kHzではオーバーサンプリングオプションが無効化されます。

A B → B

Δ VOL 0.0

OUT 0.0

2つの状態を一時的に保存して素早く比較できます。矢印はアクティブな状態をもう一方にコピーします。

Δ VOL は Medusa の寄与信号の出力レベルを制御します。

BLEND で定義されたバランスを変更することなく、ドライ信号に対する貢献の強度を調整します。

MAIN OUTスライダーは、最終出力段で適用される-12 dBから12 dBのクリーンゲインを備え、全体的な制御を可能にします。

A B C RND

Q バリエーションは、アナログ部品の許容誤差をシミュレートするために各バンドパスフィルターに適用される Q のわずかな違いであり、これにより明確な共振特性が生まれます。

About  
 License Status  
 User Guide  
 Set Default Size

オプションメニュー About - バージョン番号やデモ版の有効期限を確認します。

ライセンスステータス - ライセンスを管理します。

ユーザーガイド - ユーザーガイドを開きます。

デフォルトサイズを設定 - グローバル設定です。現在の GUI ウィンドウサイズを、新しいインスタンスのデフォルトとして設定します。

# プリセットマネージャー

お気に入り  
フォルダ お気  
に入りプリセッ  
トを自動的に表  
示します

プリセットを異なるフォルダ/サブフォルダ/ルート間でドラッグ & ドロップできます。クリックでプリセットを読み込み、ダブルクリックでプリセットを読み込んでプリセットマネージャーウィンドウを閉じます。

プリセット名フィールド -  
現在読み込まれている  
プリセット名を表示し、ク  
リックするとプリセットマ  
ネージャーを開きます。

矢印ボタン - 同じフォル  
ダ内の前のプリセットま  
たは次のプリセットに移  
動します。

展開/折りたたみ  
矢印 - フォルダ/  
サブフォルダを開  
く、または閉じる。

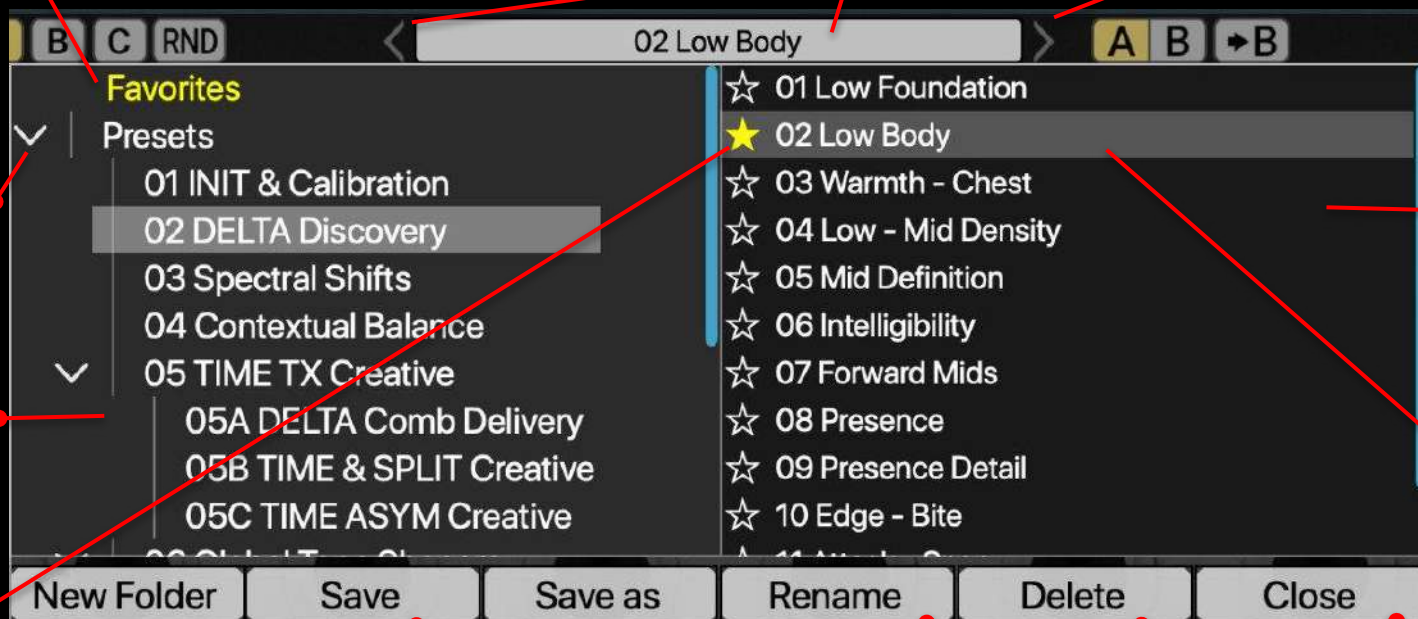
左パネル(ツ  
リービュー) -  
フォルダとサブ  
フォルダを表示  
します

★(アクティブ  
スター): このプリ  
セットはお気に  
入りにも登録さ  
れています。

右パネル(リス  
トビュー) - 選  
択したフォルダ  
に含まれるプリ  
セットを表示し  
ます。

選択済みプリセッ  
ト - シングルクリッ  
クで読み込み、ダ  
ブルクリックでプリ  
セットマネージャー  
を読み込んで閉じ  
る。

閉じる: プリ  
セットマネー  
ジャーウィンド  
ウを閉じます。



新規フォル  
ダ: 新しいフォ  
ルダを作成し  
ます。

保存: 選択し  
たプリセットを  
上書きしま  
す。

名前を付けて  
保存: 現在の  
設定を新しい  
プリセットと  
して保存しま  
す。

名前変更: プリ  
セットまたはフォ  
ルダ名を変更し  
ます。

削除: 選択し  
たプリセット/  
フォルダを削  
除します。

# グローバルライブラリ規則

## 番号付け

すべてのプリセットフォルダは番号順で使用されます。プリセット名は 2桁のインデックス(01、02、03...)で始まり、一貫した閲覧順序を確保します。

## 結果重視の命名

プリセット名は、楽器や音源ではなく、聴覚的な結果とインタラクションの動作を記述します。Medusaは並列周波数バランサーであるため、名前は補正 EQタスクではなく、バランスと知覚を反映します。

## 強度を示す接尾辞

強度が関連する場合、プリセットには明示的な接尾辞を使用します: (Subtle)、(Moderate)、(Bold)。

## モード変更の開示ルール

プリセットがルーティングモードまたは時間領域モードを有効にする場合、名称に明示的に含める必要があります:

- DELTA(寄与のみ試聴意図)
- TIME(時間回路有効)
- TIME ASYM(左右でTIMEモードが異なる)
- SPLIT(上部バンクを左に、下部バンクを右に分割)
- POL INV(寄与極性反転)

## モード変更時の開示ルール

フォルダは、コンテナ(サブフォルダを保持)かリーフ(プリセットを保持)のいずれかであり、両方ではありません。これにより曖昧さが防止され、ブラウジングが予測可能になります。



# プリセットを適切に試聴する方法

## DELTAと並列ブレンドの比較

- DELTAは追加要素のみを聴取できます。プリセットが何を付加しているかを特定し、相互作用の挙動を理解する最良の方法です。
- パラレルブレンドは音楽的判断のための意図されたリスニングモードです。なぜなら、その寄与分がドライ信号とミックスされるためです。
- 実用的なルール: DELTAで動作を確認し、Parallel Blendで音楽的な結果を判断する。

## DELTAでTIMEがディレイのように聞こえる理由

DELTAでは、TIMEの設定が聴こえるディレイやスラップバックとして認識されるのは、遅延された要素のみを聴いているためです。Parallel Blendではドライ信号が知覚の基準となるため、同じTIME設定でも文字通りのリピートではなく、開放感・奥行き・空間として表現されることが多いのです。

# カテゴリー概要

## 1. INIT & キャリブレーション

目的: 中立的なベースラインとキャリブレーション状態を確立し、他のカテゴリーの参照として使用されるユーティリティプリセットを提供する。

用途: Medusaの学習時、動作のトラブルシューティング時、または既知で安定した開始点が必要な場合にここから開始します。ユーティリティ状態(例: ブロードバンドアンカーや制御された参照設定)もここに属します。

## 2. DELTA ディスカバリー

目的: 異なる領域や寄与の挙動を分離した状態での音の特性を理解させる。

用途: DELTAで試聴し追加要素を理解した後、Parallel Blendに切り替えて音楽的統合効果を確認。教育指向のカテゴリで、直感的な理解を迅速に構築。

### 3. スペクトルシフト

目的: 従来の補正用EQとは異なる動作で、知覚されるスペクトル中心を移動させる広範な音調方向の調整。

用途: パラレルブレンドで使用し、迅速かつグローバルな「ティルト効果」を実現。詳細なバランス調整ではなく、方向性とムードを決定するカテゴリー。

### 4. コンテキストバランス

目的: 日常的なミキシングとバスセーフなバランス調整。音楽的用途向けにチューニングされ、最小限の干渉で動作。

用途: 保守的な範囲(通常BLEND約25~35%)でのパラレルブレンド専用設計。一般的なミキシング 2バス処理、マスタリング関連作業のメイン「日常使用」セット。

### 5. TIME TX Creative

カテゴリー05はサブフォルダを含むコンテナです。時間領域の相互作用とステレオルーティング挙動に焦点を当てています。

#### 5.1 DELTA Comb Discovery/Delivery

目的: コーム相互作用の実験・教育用セット。

用途: 主にDELTAでの発見と実証のために探索されます。極端な状態や制御されたコームの例が含まれる場合があります。このフォルダは、意図的に顕著な相互作用の挙動を教え、提供することを目的としています。

#### 5.2 TIME & SPLIT Creative

目的: 制御可能かつ再現性のある方法でIMEおよびSPLIT動作を適用するための音楽アプリケーションセット。

用途: パラレルブレンドで評価されるように設計されており、DELTAは発生している現象を特定するために使用される。

SPLIT定義: 上段バンクは左チャンネルに、下段バンクは右チャンネルに寄与する。

- 上側バンク周波数:125、250、500、1k、2k、4k Hz。
- 下段バンク周波数:175、350、700、1.4k、2.8k、5.6k Hz。
- 命名規則:SPLITを使用するプリセットは名前にSPLITを含みます。TIMEを使用するプリセットは名前にTIMEを含みます。

### 5.3 TIME ASYM Creative

目的:TIME LeftとTIME Rightを意図的に異なる値に設定した、非対称な時間領域のクリエイティブなプリセット。

用途:非対称TIMEはステレオ・スキューに加え、幅と奥行きをもたらします。明確さと安全のため、これらのプリセットは専用のサブフォルダに配置し、名称に「TIME ASYM」を含める必要があります。控えめな非対称性から始め、強度を段階的に高めてください。

## 6. グローバルトーンシェイパー

目的:バンドごとのEQのように振る舞わず、基盤・深み・高域のバランスを形作るマクロスタイルのグローバルコンタープリセット。

使用法:カテゴリ03と04でメインバランスを確立した後の仕上げ調整や広域的な音像補正に使用。バス処理やフルミックスに広く適用可能。

## 極性反転(寄与極性)

寄与極性の反転は、出力全体ではなく寄与信号のみに影響します。これはパラレルブレンドにおける寄与信号とドライ信号の相互作用を変更し、その効果はプログラムに依存します。そのため:

- 極性反転状態は、名称に「POL INV」を明示的に記載してください。
- 一般的に、極性反転機能は明確にラベル付けされたユーティリティや専用ミニセットに限定し、音楽カテゴリ全体に散在させないこと。

# 修飾キー

## タブナビゲーション(バンド値)

- Tab キーを押すと、現在のバンド値を確定し、次のバンドに移動します。

## ノブ、スライダー、その他のコントロールの微調整

- macOS: Control (^) キーを押したまま、左クリックしてドラッグ
- Windows: Ctrlキーを押したまま、左クリックしてドラッグ
- 代替操作: 右クリック&ドラッグ(修飾キー不要)

## コントロールをデフォルト状態に戻す

- macOS: Option (⌥) + 左クリック
- Windows: ALT + 左クリック

代替操作: ダブルクリック(修飾キー不要)

## 一時的な無効化(非破壊オーディション)

- macOS: Cmd(⌘) + Option(⌥)を押しながらコントロールにカーソルを合わせる
- Windows: CTRL + ALTを押しながらコントロールにカーソルを合わせる

ホバー中のバンドまたはグローバルコントロールを一時的に0に設定し、集中したリスニングを可能にします。値が変更されたり書き込まれたりすることはありません。

オートメーション用パラメータを有効にする( Pro Toolsのみ)

macOSではControl + command + option (^ + ⌘ + ⌥)、WindowsではCTRL + ALT + START ()を押します。

# メデューサ専用ショートカット

## フィルターバンドノブ

### シングルバンド

- ダブルクリック: このバンドを0にリセット
- Shift + ダブルクリック: このバンドを50に設定

### 全12バンド(値のみ)

- macOS: ⌘ + ⌥ + 任意のバンドノブをダブルクリック
  - Windows: Ctrl + Alt + 任意のバンドノブをダブルクリック
- 操作: 12バンド全ての値を0に設定、その他は変更なし

## M ボタン(ミュート)

### シングルバンド

- M をクリック: そのバンドのみのミュートを切り替えます。

### 行ミュート(クリックしたMボタンの現在の状態に基づく)

- macOS: ⌘ + ⌥ + M ボタンを左クリック
  - Windows: Ctrl + Alt + M ボタンを左クリック
- 操作: クリックしたMの意図をその行に適用:
- クリックしたMがOFFの場合、その行の全MをONに設定 (行をミュート)
  - クリックしたMがONの場合、その行の全MをOFFに設定 (行のミュート解除)

### 全12ミュート(クリックしたMボタンの現在の状態に基づく)

- macOS: ⌘ + ⌥ + Mボタンの右クリック
  - Windows: Ctrl + Alt + Mボタンの右クリック
- 操作: 上記と同じ意図ルールを、12個のMボタン全てに適用します。



# プリセットの管理

## インストール

インストール中に「プリセットをインストール」オプションを選択したままにすると、工場出荷時のプリセットが上書きされます。ご自身のプリセットはそのまま残ります。

工場出荷時プリセットへの編集内容を保持するには、更新時に「プリセットをインストール」の選択を解除してください。

## プリセットの保存

プリセットマネージャーの「名前を付けて保存」機能を使用して独自のプリセットを作成してください。これにより、今後の更新で上書きされるのを防げます。プリセットマネージャー内でプリセットをフォルダやサブフォルダに整理することも可能です。

## プリセットの保存先:

- Windows: `C:\Users\Public\Documents\Pulsar Modular\P915 Medusa\Presets`
- macOS: `/Users/Shared/Pulsar Modular/P915 Medusa/Presets`

フォルダやサブフォルダの整理、名前変更、作成が可能で、すべての変更はプリセットマネージャーに自動的に反映されます。

# Pro Tools プリセット管理

Avid Pro ToolsでP915 Medusaを使用する際は、Pro Toolsのプラグインプリセット管理が他のDAWとは異なる点に注意してください。P915 Medusaの内部プリセットシステムがPro Toolsのプリセット管理とシームレスに連携するよう、以下の手順に従ってください：

1. プラグインのデフォルト動作を設定する
  - プラグインのヘッダーバー（プラグインウィンドウ上部）で、Pro Toolsのプリセットドロップダウンメニューを開きます。
  - 設定＞環境設定 → プラグインのデフォルト設定を → ユーザー設定 に設定します。
  - これにより、P915 Medusaはプラグイン挿入時に毎回工場出荷時のデフォルト設定に戻るのではなく、直近の設定またはユーザー定義設定を呼び出すようになります。
2. プリセットをセッションフォルダに保存
  - 再度プリセットメニューを開き、設定＞プリファレンス＞プラグイン設定の保存先＞セッションフォルダを選択します。
  - これにより、すべてのカスタム P915 Medusa 設定が、グローバルルート設定ディレクトリではなく、現在の Pro Tools セッションフォルダ内に保存されます。
  - これは、セッションを共同作業したり、システム間で移動したりする場合に特に有用です。P915 Medusa の設定は、セッションとともに自動的に移動します。

ヒント：両方のオプションを有効にすると、Pro Tools と P915 Medusa の内部プリセットブラウザが連携して動作し、セッション間で一貫したリコールとスムーズなプリセットワークフローが保証されます。

# P915 Medusa のアンインストール

## Windowsの場合

- VST3: 'C:\Program Files\Common Files\VST3\Pulsar Modular' 内の 'P915 Medusa.vst3' フォルダを探し、削除してください。
- AAX: 'C:\Program Files\Common Files\Avid\Audio\Plug-Ins\Pulsar Modular' 内の 'P915 Medusa.aaxplugin' フォルダを削除。
- 共有フォルダ: 'C:\Users\Public\Documents\Pulsar Modular' 内の 'P915 Medusa' フォルダを削除。このフォルダには  
にはユーザーガイドとプリセットが含まれています。Pulsar Modular」フォルダ内に他のフォルダが存在しない場合、この  
フォルダも削除可能です。

## macOSの場合

- AU: '/Library/Audio/Plug-Ins/Components' 内の 'P915 Medusa.component' ファイルを削除してください。
- VST3: '/Library/Audio/Plug-Ins/VST3/Pulsar Modular' 内の 'P915 Medusa.vst3' ファイルを削除してください。
- AAX: '/Library/Application Support/Avid/Audio/Plug-Ins/Pulsar Modular' 内の「P915 Medusa.aaxplugin」フォルダを削除してください。
- 共有フォルダ: '/Users/Shared/Pulsar Modular' 内の 'P915 Medusa' フォルダを削除してください。このフォルダにはユーザーガイド  
とプリセットが含まれています。'Pulsar Modular' 配下に他のフォルダが存在しない場合、このフォルダも削除可能です。

コンセプト&ワークフロー設計: ジアド・シダウィ

プラグイン開発: メスート・サイギオウル

GUI開発: マックス・ポノマリオフ / アジモフGUIデザイン – [www.behance.net/azzimov](http://www.behance.net/azzimov)

ユーザーガイド: Ziad Sidawi

ページレイアウト: Burak Öztop

本ユーザーガイドの誤りや欠落については、[psupport@pulsarmodular.com](mailto:psupport@pulsarmodular.com) までご連絡ください。

Copyright © 2026, Pulsar Modular™. 無断複写・転載を禁じます。

P/N: 12821, Rev. 2

仕様および記載内容は、予告なく変更される場合があります。

P915 MEDUSA は Pulsar Modular™ の製品名です。

### Restrictions

本ソフトウェアをリバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブル、改変、翻訳、翻案、貸与、リース、サブライセンス、配布、再販売、またはその他の方法で第三者に提供することは禁止されています。

また、インパルスレスポンス、プロファイル、キャプチャ、再サンプリングまたは再録音された素材など、本製品を再現したり再配布を可能にすることを目的とした派生製品やデータセットを作成することも禁止されています。

AAX および Pro Tools は Avid Technology, Inc. の商標です。

Audio Units は Apple Inc. の商標です。

VST は Steinberg Media Technologies GmbH の商標です。

Pulsar Modular™ は、オマーン国マスカットに所在する Ziad Al Sidawi SPC の商標です。

その他の商標は、それぞれの権利者に帰属します。

Pulsar Modular™

Unit 52, Building 348, Way 5001, Block 250

South Aludhaybah, Bawshar, スカット

オマーン国

pulsarmodular.com